



共に学ぶ

学校支援ボランティアセンター(SSVC)

第39号 (年2回発行)

狭山市学校支援ボランティアセンター
＜ 事務所 ＞

狭山市狭山台1-21

狭山元気プラザ内A棟3F

Tel/Fax04-2927-1395

E-mail: sayama-ssvc@bd.wakwak.com

電話受付: 月・水・金曜日午後1時～4時迄



SSVC HP

SSVC☆変わらぬ支援への感謝☆

日頃より、学校支援ボランティアセンターの皆様には狭山市の学習支援のみならず、花壇整備や安全見守りなど、多種多様なご支援にご尽力いただき、衷心より感謝申し上げます。

今年度より「夢をかなえ 人をつくる 狭山の教育」を基本理念に掲げる第4次狭山市教育振興基本計画がスタートしましたが、皆様の温かなご支援は、子供たちの学びや成長を支える大きな力となっています。基本理念の実現に向けて定めた3つの基本方針を、学校と地域の連携という側面から見ると、学校運営協議会の導入、地域学校協働活動(SCSC)の推進により、学校や家庭と地域が連携・協働することで一体となって地域の教育力の向上、人材育成、学習の補完に努めることは、包摂性を持った生涯学習社会を推進し、生きる力を備え未来へはばたく“さやまっ子”の育成につながりますが、その根底にある“さやまっ子”

狭山市教育委員会 社会教育課 課長 坂本 憲昭

の健やかな成長を願う思いは「SSVC 運営の基本方針」と重なります。

核家族化の進行、地域のつながりの希薄化など、子供たちの生活環境が変化を続ける中、ICT教育や電子黒板の導入な

ど教育環境も大きな変化を遂げ、不登校やゲーム依存、スマホ使用の課題など、子供の抱える課題が多様化・深刻化していく中で、“さやまっ子”の「生きる力」を育むためにSSVCの変わらぬ支援を受けられることは、子供たちや学校、地域にとって尊く貴重であり、今後も子供たちへ寄り添う温かい支援、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。



SSVCの継続的发展に向けて

2007年に設立されたSSVCですが、コロナ禍を経て登録者の状況には大きな変化が生じています。以前は会社員は60歳で定年退職するのが普通でしたので、地域には時間に余裕のある人が大勢いましたが

「2007年問題」への対応が進んだ結果、気力と体力があれば70代になっても稼ぎ続けるのが当たり前の社会になりました。これに伴って、ボランティア活動や平日の公民館での活動に参加できる人の高齢化が進んでいる一方で若い参加者が入ってくれないのが、各団体で共通の悩みになっています。SSVCは狭山市全域をカバーする人材バンクを持っていることが強みですが、コロナ禍を境に登録者数を登録抹消者数が上回るようになり、高齢化による登録者の減少を新規登

SSVC 事務局長 山田 恵一

録者で補うことができなくなっています。市民大学の講座として始めた「学習支援員養成セミナー」は形を変えながら継続しており、新しく参加してくれる人たちを育成すると共に、既に活動している人たちに学校現場の最新の状況を知ってもらうことで、学び直しの機会として活用して頂いています。また、地域学校協働活動(SCSC)が動き始めましたので、SSVCに登録されていない地域の方々や公民館で活動している団体の方々と連携し易くなりました。更に、仕事を持っている方に空いた時間を活用して短時間だけ参加して頂けるような支援のやり方を工夫するなど、皆で知恵を出し合って先輩から受け継いだ貴重な活動を継続して行きたいと考えています。

＝ SSVC 設立20周年にあたって ＝

狭山市学校支援ボランティアセンター(SSVC)は、「地域の子は地域で育てる」を理念に掲げ、まもなく設立 20 周年を迎えます。平成 19 年 4 月の設立以来、300 名以上の市民ボランティアが市内全校で活動し、算数、理科、英語、家庭科などの教科補助を通じて子どもたちに「わかる喜び」を提供して来ました。その先駆的な取り組みは「朝日のびのび教育賞」を受賞するなど、全国からも注目を集めてきました。近年は別室登校(SSR)支援や ICT 活用にも対応するなど、多様な教育ニーズに柔軟に応えています。

設立以来、毎年度末に小中学校の代表、PTA 連合会の代表、地域子ども教室連絡協議会の代表と学識経験者の方々をお招きして、諮問会議を開催しています。

第 19 回諮問会議は 2026 年 2 月 28 日に富士見集会所で開催され、今年度の実績と来年度の計画を報告した後に、活発な意見交換が行われました。

【令和7年度の活動成果と課題】

全体の支援時間数はコロナ禍前に近い状況まで回復しましたが、支援者一人当たりの負担増が課題となっています。

今年度の成果として、SSR(校内学習支援ルーム)の本格運用が始まりました。ボランティアの常駐により、教室に入りづらい生徒の居場所を確保し、学習機会の保障や不登校の未然防止に貢献しています。また、独自に開催した「学習支援員養成セミナー」は、新たな人材発掘と支援者の学び直しの場として大変有意義なものとなりました。

【令和 8 年度の方針】

設立から 19 年が経過し、今後の活動継続には参加者の世代交代が不可欠です。来年度は、各学校区での地域学校協働活動の進展に合わせ、若い世代への周知と他の活動団体との「緩い連携」を通して参加者の拡大を図ります。また、支援の中核となる人材を確保するため、引き続きセミナーを開催してまいります。

意見交換では、委員の皆様から SSR 運営の持続可能性に関するご意見や、SSVC の活動への期待の声が寄せられました。皆様からのご助言を糧とし、20 周年の節目に向けた活動記録の整理も進めながら、持続可能な支援体制の構築を目指してまいります。

(SSVC 運営委員会 記)

全国的にも珍しいと評価の学校支援活動の由来を探る ⑩ 最終回

～～今までを振り返り、エピソードや今後の展望などシリーズで掲載～ 前 SSVC センター長 諸井 寿夫

十年一昔といいますがSSVCは二十年の年月が流れ、私の印象深い事項を回顧してみました。

まず当該センターの開設(2007.4)に際し、学校教育の質的向上をはかる「開かれた学校づくり」を進めることを目的として、教育長をはじめ多くの関係諸氏と共通認識をして今後の推進を誓う会(キックオフ)を開催しました。そして試行錯誤の結果、市内小中全校の学習支援、CN の全校配置、習熟度別支援、研修など「学校支援ボランティアガイドライン」の作成に至りました。また「さやま市民大学」との連携、講座開設など支援員の拡充は、とても重要なファクターでした。

これらの内容が評価され「朝日のびのび教育賞」を受賞、贈呈式が開催され、このことが全国紙に掲載されました。この活動は全国的にもまだ珍しいとのことで、県内外から問い合わせ、視察、講演の要請(文科省講堂での全国発表、県教育センターで各市町村関係者と)、教育機関誌への執筆としばらくの間うれしい悲鳴が続きました。

また「創設 7 周年フォーラム」、「10周年記念フェスタ」を開催して、支援員と一緒に活動を更に盛り上げました。中

学生学習支援事業「さやまっ子・チャレンジスクール」の運営を市から委託を受け 5 年間ほど活動しましたが残念ながらコロナ禍の影響で中止することとなりました。

尚、文科省より多くの方針が出され「学校支援地域本部」「コミュニティスクール」などは、更なる地域を重んじた子供の主体性と対話を通じた学びを重視、全校児童生徒へタブレットの配布、デジタル教科書、部活動の地域との連携など支援員の学びも必要で、「共に学ぶ」と命名した広報誌ですが、現在もその名称通り子供たちと一緒に世の中の変化を学ぶことが大切です。

今回は、SSVC 創立から20年間の私の印象深い活動を思い起こし



朝日のびのび教育賞の贈呈式

てみましたが、この全てのことが素晴らしい集団であるSSVCの皆さんの活躍のお陰で、今後も継続した展開を祈念して、10回のシリーズ原稿の締めとします。

校長先生 こんにちは 38

「ともに未来を育む広瀬小

—開校 51 年目の新たな歩み—

狹山市立広瀬小学校 校長 菅野 朝子

日頃より、SSVC の皆様をはじめ、保護者・地域の皆様には、本校の教育活動に温かいご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。SSVC の方々には、日々の授業における丸付けや校外学習の引率、公民館と連携した昔遊びの活動など、多様な場面で子供たちに寄り添い、その学びを支えていただいております。地域と学校が力を合わせて子供を育てる姿は、本校の大きな強みでございます。

私はこれまで様々な学校で子供たちと関わる中で、「人とのつながりの中でこそ子供は育つ」と実感してまいりました。本校においても、SSVC や地域の皆様

との連携を大切にしながら、一人一人の良さを伸ばしていきたいと考えております。

昨年度、本校は開校 50 周年を迎え、今年度は新たな一歩となる

51 年目を歩み始めました。これまでの伝統を大切にしながら、本校の目指す学校像である「子供・保護者・地域・教職員が誇りに思える学校」の実現に向け、安心して学び成長できる環境づくりに努めてまいります。

今後とも、学校・家庭・地域が一体となり、子供たちの健やかな成長を支えていけるよう取り組んでまいります。引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



令和7年度第2回全体 CN 会議

令和7年度第2回全体 CN 会議を3月16日（月）13：30より元気プラザ大会議室にて行いました。

講演は、「小学校での不登校児童の現状」について
教育センター 坂木 裕子 所長
柏原小学校長 長嶋 照代 先生
の二人にお話をいただきました。

1)「狹山市の不登校支援の現状について」と題して、坂木所長から不登校の定義と不登校になる背景や全国における現状のお話があり、全国では増加傾向であるが狹山市では減少傾向にある事、狹山市の対応として、家庭訪問を行い、登校を促す活動、加えて「ひだまり」の設置を行い利用者は登校扱いになること、中学校では多くの学校で SSR を設けて対応していて、SSVC にも見守りに協力してもらっているなどのお話をして頂きました。

2)「中学校 SSR の支援の現状」

中学全8校の CN により、各校での取り組みや、現在の状況について、詳しい話をして頂きました。

3)「小学校 SSR の支援の現状について」と題して、長嶋校長先生から狹山市の小学校で唯一設置されている SSR が出来るまでのお話しをして頂きました。当初のカオス状態から抜け出すために、運営方法と仕組みを関係各方面から学び、今の「レインボールー

人材グループ 有田 茂

ム」が出来ました。その内容を配布された資料で説明され、特に低学年では独占意欲の強い児童が多いため、平等に対応できるよう時間割を設けて、楽しむ時間や学習する時間を決めて R7 年度には改善をした時間割にすることが出来たこと。加えて各学年の状況、フリースクールの対応など、多くの参考となるお話しをしていただきました。

4)「小学校における支援の心構えや留意点」

（坂木所長・長嶋校長）

なかには多様な要因や原因を持った児童がおり、特に心理的要因や身体的な病気の場合には病院と連携して、また家庭環境などは市の専門部署との連携をして対応している。SSR での支援では、児童に寄り添いながら、時間をかけて安心感を持てるように見守るだけで、もし異常があった場合は先生に連絡するだけで十分である。などのお話しをして頂きました。

5) 座談会&QA（参加者全員）

「先生との情報共有について」、「今後 SSR を設ける予定の学校はあるか」などの多くの質問や意見があり、すべての質問に答えて頂きました。今回の全体 CN 会議ではこの講座と座談会で占められ、書き切れないととても多くの深い学びがありました。

新しい「算数スキル」

御狩場小学校では、毎週木曜日の朝の時間（8時25分～8時40分）は、「算数スキル」の学習をします。昨年度までは、1～6年生の各教室にボランティアが2名ずつ入り、算数プリントに丸付けをして基礎学力の定着に努めてきました。

今年度からは低学年・中学年を対象に

1. 繰り返し学習を通じた基礎学力の定着
2. ボランティア団体のマンパワーの有効活用
3. 子供たちが更に生き生きと楽しく取り組める工夫

の3つを意識した持続可能で無理のない新たな取り組みをしてみました。

朝の15分の短い時間でも、児童もボランティアも楽しみながら、達成感が味わえるよう空き教室も

御狩場小学校 新しい「算数スキル」の取り組み

～1年間の「算数スキル」のボランティアによる学習支援計画～

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
計算内容		3年生 【×】	2年生 【+-】		4年生 【×】		1年生 【+】		1年生 【-】	2年生 【×】	

御狩場小コーディネーター 菅原 秀子

活用して役割分担をしながら以下の内容に取り組んできました。

STEP 1 暗唱ゲーム



1年生は「10のまとまり」を意識して、右図の「10のたしざん」を暗唱します。2年生以上は「かけ算九九」を「一の段」から順番に暗唱します。1学級を4グループに分け、大きな口ではっきりと言っている児童を学習支援ボランティアから認められた児童はSTEP2へ移動します。

暗唱ゲームは、ボランティアに選ばれるまで、暗唱を繰り返すルールでやっています。暗唱を通して、口と耳で覚えるとともに、ボランティアの応援でやる気もUPしています。

STEP 2 計算ゲーム



学習支援ボランティアが計算カードを持っていて、3枚の計算カードの問題に解答できると、ボランティアから「マスターカード」にサインがもらえて、児童は大喜びです。2年生以上は「かけ算九九」を段ごとに暗唱して、ボランティアからサインをもらいます。すべて揃った児童から、「STEP3」へ移動します。

STEP 3 マス計算



STEP2を終えた児童は、教室に戻り、ボランティアからマス計算用紙をもらい、マス計算に取り組んでいます。マス計算に慣れた児童は、時間を測定して記録します。自分の伸びを実感できる取り組みをしています。丸付けもボランティアがやるので、先生方からも好評です。



「職業人のお話を聴く会」

入間川中学校コーディネーター 木村 陽一

入間川中学校では、学校運営協議会主催のキャリア教育として、1年生を対象に「職業人のお話を聴く会」が毎年開催されています。この会は、地域の大人が「働く喜び」や「生きがい」を直接生徒に伝え、将来への希望を育むことを目的とした重要な教育活動として位置づけられています。

当日は、生徒さんが事前に選択した3つの講座（各20～30分）で3コマ受講します。講師陣には、消防士や助産師、Webデザイナー、声優、元競艇選手、小説家など、多岐にわたる職業の方が参加しました。各講師は、職を選んだ理由、仕事内容、中学生のうちに頑張るべきことなどを具体的に伝えました。私はICT業界を紹介し、AIの進展による変化に言及し

つ、「技術は変わる。でも、君のアイデアは大切だ。」というメッセージを生徒さん達に送ることが出来ました。SSVCとしては他にセコム様のラグビーチームのラグッツ様から、社会人スポーツ選手として経験を語っていただきました。この企画を通じ、生徒さんが多様な職業を知ることによって「自分の好き」を追求し、将来の可能性を考えることができるようになったと思います。



SSVC 支援実績

昨年度比1300時間増で支援時間はコロナ前水準に回復。一方、非対面支援が中心となり、支援者は210名で約100名減。小学校では国語、算数、理科、家庭科、書写・書初め、お米作り、お茶づくり、まち探検、読み聞かせ、地元の史跡逸話紹介、マーチングバンド練習。中学校では、英語、数学、国語、社会、家庭科に、別室登校生徒の見守りや学習支援を行いました。

情報集約グループ 角田 ふで子

	1学期	夏休み	2学期	3学期	合計
2023年度	1774時間	296時間	2739時間	1613時間	6421時間
	小学校8校	小学校1校	小学校11校	小学校8校	小学校12校
	中学校7校	中学校3校	中学校6校	中学校6校	中学校7校
2024年度	1787時間	339時間	3394時間	2154時間	7674時間
	小学校10校	小学校4校	小学校13校	小学校12校	小学校14校
	中学校7校	中学校3校	中学校7校	中学校7校	中学校8校
2025年度	2377時間	311時間	3962時間	2312時間	8962時間
	小学校11校	小学校4校	小学校12校	小学校12校	小学校15校
	中学校8校	中学校4校	中学校8校	中学校8校	中学校8校